

## 研究主題

# 『考え、議論する』道德科授業の創造

本校では下記の3つの仮説をもとに、道德教育の研究・実践を進めているところです。  
本日御参加いただいた皆様方には、本日の授業及びこれまでの研究・実践について、忌憚のない御意見や御助言を賜り、今後の研究に生かしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 研究の仮説 ①

道德科の授業において、生徒が自らの考えを伝え合う場を設定し、議論することで、生徒の考えが深まり、道德性が養われるであろう。

### 研究の仮説 ②

組織的・計画的な教材研究と授業実践を行うことで、教師の授業力が高まり、生徒の道德性が養われるであろう。

### 研究の仮説 ③

道德科の授業と関連する掲示物を使った学習環境の整備を行うことで、生徒の学びの共有や支持的風土の醸成につながり、生徒の道德性が養われるであろう。

環境をととのえ  
豊かな心を育み  
個々が共に輝く

—主催—

熊本県教育委員会  
菊陽町教育委員会

菊陽町立菊陽中学校

# 「考える道徳」・「議論する道徳」への転換

～ 道徳的な課題を一人一人の生徒が  
自分自身の問題と捉え、真剣に  
菊陽中の道徳科授業は変わる

向き合った時  
そして菊陽中生徒が変わる ～

## 研究の概要

○教科化の背景と経緯（校内研修：テーマ研究「道徳理論研修」から）

### 【道徳教育推進上の課題】

これまで道徳教育は、道徳の時間を「要」として学校の教育活動全体を通じて行うものとされ、確固たる成果を上げた。しかし、一方では、歴史的経緯に影響され未だに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること、他教科に比べて軽んじられていること、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなど、多くの課題が指摘されてきた。

平成26年2月、道徳教育の充実を図る観点から、教育課程における道徳教育の目標、内容、指導方法、評価について、中央教育審議会に対して諮問がなされた。

### 【中央教育審議会答申】（平成26年10月）

下記を基本的な考え方として、道徳教育についての学習指導要領の改善の方向が示された。

- 道徳の時間を「特別の教科 道徳」と位置付けること
- 道徳の内容を発達の段階を踏まえた体系的なものに改善すること。
- 多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善すること。
- 検定教科書を導入すること。
- 一人一人のよさを伸ばして、成長を促すための評価を充実すること。

### 【中学校学習指導要領の改訂】（平成27年3月27日）

いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえ、内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることが示された。特定の価値観の押し付けや主体性のない行動の指導を避け、誠実に道徳的価値と向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質とし、

答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う、「考える道徳」・「議論する道徳」への転換が、今、求められている。

## ○研究の目的

学校教育目標の実現に向け、道徳的課題を一人一人の生徒に自分自身の問題として捉えさせ、向き合うための、効果的な手立てを明らかにすることによって、道徳科授業の充実を図る。

## ○目指す生徒の姿

よりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けた生徒。

## ○研究の方向性

生徒の道徳的課題の確実な把握と道徳的課題の解決に向けた、効果的な指導方法の選択。

生徒の実態に即したねらいとする道徳的価値、主題の設定



学習指導の展開の工夫（35時間の授業実践）



道徳科授業の充実・効果的な手立てのまとめ

## ○研究へのアプローチ

アンケートや意識調査等の実施による道徳的課題に関する生徒の実態の把握



学校、学年の重点目標の設定及び諸計画の作成  
効果的で適切な指導方法の選択



「考え、議論する道徳」授業の実施

- ◆ 指導内容の確実な把握と教材の分析
- ◆ 学習過程の工夫  
（主体的な学習を支える発問の設定、言語活動の充実、指導方法の工夫）
- ◆ 道徳科授業の公開  
（道徳教育用郷土資料「熊本の心」、平成28年熊本地震関連教材「つなぐ～熊本  
の明日へ～」の活用）
- ◆ 地域人材の活用等（家庭や地域社会との連携）
- ◆ 学習環境の整備

など

## 個々の成長を大切にする

事前アンケート結果をもとに、本校の課題に焦点をあてながら、子どもたちの成長を促す。

### 【本校の課題】

- 1 友達や家族など自分と身近な人との関係づくりに対しての意識が高い反面、自分自身を高めたり、社会との関わりに関することに対する意識が低い。

周囲との関係を大切に過ぎるあまり、「自分らしさ」を出したり、「リーダーシップ」を発揮したりすることができない。主体性、独創性を高め、自信につなげたい。

- 2 道徳科の授業において、自分の考えをもとに議論したり、書いたりすることが好きだと回答した生徒の割合が低い。

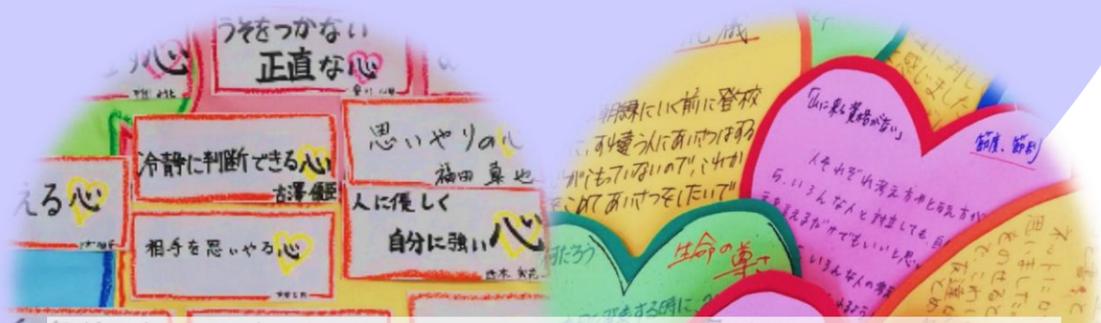
自分の思いを伝えることに苦手意識があり、互いを知り、認め合うことができていない。多様な感じ方や考え方に接することで、生徒相互の理解を深めたい。

- 3 道徳の内容項目の中でも、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に関する項目に対して、「大切にできている」と回答した割合が低い。

「鼻ぐり井手」をはじめとした郷土の史跡や歴史については小学校で取り上げられているが、中学校では発展していく菊陽町の新しいもの・ことに意識が向いてしまう傾向がある。改めて、地域の自然や地場産業をはじめ、郷土熊本や菊陽町の伝統や文化などに目を向け、郷土に誇りをもつ生徒の育成を目指したい。

## 自他の存在を大切にする

自他の思いを共有し、自分の存在意義、支持的風土の基礎をつくる。



### わたしが育てたい心・みんな育てる道徳の木

授業のスタートにあたっては、生徒一人一人が決めた「育てたい心」を教室に掲示し、授業後には振り返りを道徳の木に綴っていきながら思いを共有する。

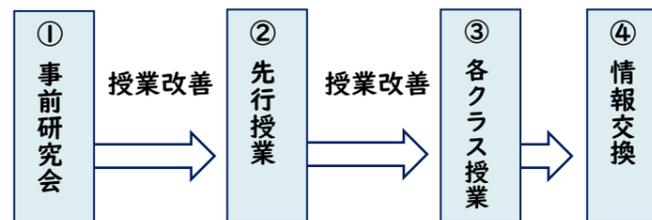
## 授業づくりを大切にする

毎時間の授業を大切にするから始め、より深まりのある授業の展開を目指す。

授業者の指導力向上、授業の質的変換を図るために、組織的・計画的な教材研究が必要と考え、学年ごとに異なるアプローチで授業づくりに取り組んだ。それぞれどのような効果があるのか比較しながら、最適なものを見つけることとした。(○：成果 ●：課題)

### 1 学年：先行授業方式

- ① 授業は各クラスの担任が行う。
  - ② 先行授業を他クラスの担任が皆で参観する。
  - ③ 各学級の実態に合わせて授業を改善する。
  - ④ 全クラス実施後、情報交換する。
  - ⑤ 先行授業者は、順番で行う。
- 授業展開や中心発問について十分検討した上で授業に臨むことで、質の向上を図ることができた。
- 時間的負担が大きく、行事等を考慮しながら話し合う時間確保の工夫が必要であった。



### 2 学年：リレー方式

- ① 授業は各クラスの担任が行う。
  - ② 授業後、工夫点や気付きなどを次の授業者に伝える。
  - ③ 前授業者の気付き等を参考に授業を改善する。
  - ④ 教材をそれぞれ1週間ずつ遅れて実施する。
  - ⑤ 各月の第1週目が授業の1時間目になる。
- 他クラスの担任の考えや授業の組立を参考にしながら、授業づくりができた。
- 担任間の打ち合わせの時間が十分確保できず、紙面での情報交換となり、深まりに欠けた。

	1組	2組	3組	4組
1週目	教材① A教諭	教材② B教諭	教材③ C教諭	教材④ D教諭
2週目	教材④ A教諭	教材① B教諭	教材② C教諭	教材③ D教諭
3週目	教材③ A教諭	教材④ B教諭	教材① C教諭	教材② D教諭
4週目	教材② A教諭	教材③ B教諭	教材④ C教諭	教材① D教諭

各担任が実態に合わせて改善

### 3 学年：ローテーション方式

- ① 授業は担任以外の職員も行う。
  - ② 同じ教諭が同じ教材を用いて、授業改善しながら全てのクラスで授業する。
  - ③ 授業をした後は、様子を担任に伝える。
- 学年全体で評価について共有することができた。
- 授業者が同じ教材で複数回授業を行うため、授業の質と授業者の授業力向上につながった。
- 授業者が一人で授業をつくるので、多様な意見を取り入れた授業づくりが難しい。

	1組	2組	3組	4組
1週目	教材① A教諭	教材② B教諭	教材③ C教諭	教材④ D教諭
2週目	教材④ D教諭	教材① A教諭	教材② B教諭	教材③ C教諭
3週目	教材③ C教諭	教材④ D教諭	教材① A教諭	教材② B教諭
4週目	教材② B教諭	教材③ C教諭	教材④ D教諭	教材① A教諭

同教諭が全クラスで授業

# 菊陽中学校 道徳科のスタンダード

導入	気づく	<p><u>学習の動機付けを図る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の課題は何か、どんなことを学習するのかという関心と期待をもたせる。自分と深い関わりがありそうだと意識させることも大切。(事前アンケートなど)</li> <li>● この段階で、学習課題を設定する場合もある。</li> </ul>
展開	とらえる	<p><u>ねらいを達成するための中心となる段階</u></p> <p><u>子どもが、これまでの道徳的価値の理解をもとに自己を見つめる</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教材から主題について考える上で、理解の手助けとなるように条件や状況を押さえる。</li> <li>② 読み聞かせをする。(挿絵、視聴覚機器などの活用)</li> <li>③ 話題を生徒の興味・関心をもとに整理する。</li> </ol>
	深める	<p><u>教材をもとに話し合う</u></p> <p>【話し合いの留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教材に描かれた道徳的価値に対する一人一人の考え方や、感じ方を生かして話し合わせるようにする。</li> <li>● 様々な考え方に触れさせ、多面的・多角的に考えることができるようにする。</li> <li>● 自分との関わりで道徳的価値を理解できるようにする。</li> <li>● 自己を見つめることができるようにする。(自己内対話の時間を確実に設定)</li> </ul> <p>【発問の留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業のねらいや主題と深く関わる「中心発問」に時間をかける。</li> <li>● 考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えさせる発問などを心がける。</li> <li>● 「中心発問」とその前後の発問を一体的に捉えた発問構成にする。(基本発問やゆさぶり発問)</li> </ul> <p>【見えない心に見える化する工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 見える化(表出)、交流の必然性を生み出すための教具を工夫する。(心情円盤、ネームカードなど)</li> <li>● 多面的・多角的な板書を工夫する。(自分の考えはどこに位置付けられるのか? 友達の考えと何がどのくらい違うのか?)</li> </ul>
	見つける	<p><u>本時の学習をもとに、自己の生き方を振り返る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常生活に目を向けさせる。今までの自分を見つめさせる。(懺悔の時間とはしない)</li> <li>● これからの生き方につなげて考えさせる。(未来志向が大切)</li> </ul>
終末	あたためる	<p><u>ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えを書いたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなげる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 感想発表</li> <li>● ゲスト・ティーチャーの活用</li> <li>● 教師の説話</li> <li>● ことわざ、格言、名言</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

## 👉 授業づくりで大切にしているポイント

### 教材理解をきちんとさせているか。

教材によっては読むだけで時間がかかってしまうものがあります。一度で理解することが難しく、漢字が混じった文章を読むことが得意ではない生徒や、文章を読んでも理解が難しい生徒もいます。その学習状況は、各学級で異なります。予め授業前に資料を読ませておき、大型モニターを用いてスライド等で確実に理解させたりするのも工夫の一つです。理解させる方法については学級の状況により臨機応変に対応することが大切だと考えています。

### 全員に自分の考えをもたせているか。

考えたり、表現したりすることが得意ではない生徒がいます。ペアで意見交換するなどして、全生徒に自分の考えをもたせてから中心発問に迫っていくことを大切にしています。

### 発問について考える時間を十分に確保しているか。

「考え・議論する道徳」の授業を展開するためには、生徒にじっくり考える時間を確保することが大切です。教師の説明を少なくしたり、思考ツールを用いたりして時間を工夫しています。また、話し合い方や目に見えない心に見える化する工夫もしています。

### 中心発問は、練りに練っているか。(本校重点研究課題)

中心発問について何度も検討した上で授業に臨むようにしています。また、前後の発問を一体的に捉えて構成することも大切にしています。

### 終末は今後の発展につながるものになっているか。

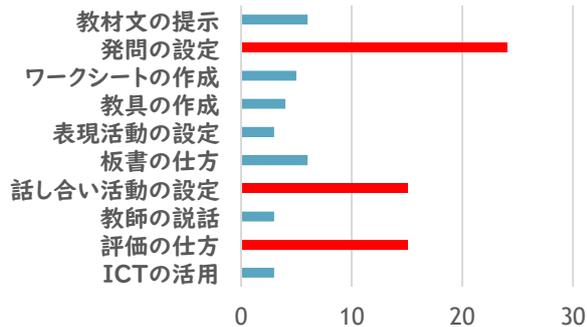
時間がないからと言って、生徒に思いを綴らせて終わりになっていないでしょうか。ねらいの根底にある道徳的価値について考え、議論したことが、今後の生活につながるように工夫しています。

# 本年度の取組と次年度に向けて

## ○ 職員の実態から

本年度5月に、授業を担当する職員に対して、道徳科の授業づくりに関するアンケート調査を行った。

道徳科の授業に関することで学びたいと思うものを次の選択肢の中から3つ選んでください。



日頃の道徳科の授業で難しいと感じていることや困っていることを教えてください。

- 発問が適切でないのか、生徒の考えを引き出せない。
- 班での話し合いが単に意見の出し合いで終わっている。
- 中心発問の前後でどのような言葉かけをするのか。
- 価値の押しつけになっていないか不安。
- 終末の仕方が分からない。

以上の結果から、本校の職員が「授業における発問をどう設定するのか」「話し合い活動をどのように進めるのか」「評価にどう取り組むのか」といった授業づくりや評価に対する悩みを抱えていることが分かった。

そこで、今年度は以下のようなことに取り組んだ。

- 年間を通じて研究授業（大研：1本、中研：9本、小研：5本）を行い、学校全体で学ぶ体制づくりを進めた。
- 道徳教育用郷土資料「熊本の心」を使い、公開授業を全クラス一斉に行った。
- 学年ごとに授業改善の取組（1年生：先行授業、2年生：リレー授業、3年生：ローテーション授業）を行い、授業力の向上に努めた。
- 外部から招聘した講師に道徳教育について基礎から学ぶことで、道徳教育に対する職員の理解を深めた。
- 校内の環境整備に取り組み、気持ちよく学べる環境づくりに努めた。

取組を通じて職員全体で道徳科授業についての理解を深め合い、授業力向上を図ることができた。一方で、今年度は学校教育活動全体を通じた道徳教育と各教科等との関連が十分できていなかったため、今後は各教科等との関連を改めて整理し、全体計画（別葉）の見直しと積極的な活用に取り組むことで、更なる道徳教育の充実を図りたい。

また、心のアンケート結果やQ-Uテスト結果、SNS使用についての課題等との関連を大切にしながら、更なる道徳教育の充実に取り組んでいきたい。

本日は、本校公開授業に御参加いただき、誠にありがとうございました。

次年度は、本年度の研究を更に高め、御参加いただく皆様に有意義な時間を過ごしていただけますよう全職員一丸となって研究を進めてまいります。今後とも皆様の御指導・御支援のほどよろしくお願い申し上げます。